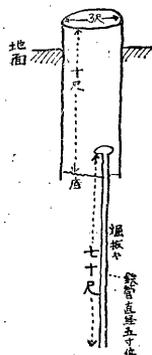


ありたる由なり。尙關東大震災の當時の前後に於ける此井戸の

状況は別に變化なき由なり。



三、其他羽田方面の井戸に關する調べ 羽田穴

守町新川愛法氏方の井戸深さ二百四十一尺のものは現在何ら異常なきも日照續きたる時等急に水が盛んに吹出し、後出が悪くなる等の事ありたる由なり。此の井戸は大震災以後に掘りたるものにして、初め百十尺位掘りたる時は瓦斯盛んに發生し使用し得ざりしが爲め、其後現在の二百尺以下に掘り下げたる處瓦斯の發生もなく、其後左程の變化なき由なり。尙同町要館なる旅館に於ては百尺位の井戸より盛んに出る瓦斯を利用して湯を

沸したる事ありたる由なり。

四、結論 此れを要するに當地方は埋立地なるを以て地下約百尺位の地層には貝類其他種々不純なる腐敗物あるやに思はれ、此等より「メタン」瓦斯多く發生する模様の如し、二百尺以上の深さには此等瓦斯の發生する模様なし、尙水質は沃度、鐵分等を含み多量の鹽分を含む、故に石井氏宅の井戸も此の「メタン」瓦斯が去る六日の地震にて多少地下に變動を起したるが遠因となり、地下の「メタン」瓦斯が一時に多量吹出すと共に黑色の不純水を涌出せしものなるべく其後掘抜鐵管の一部が閉されたか、或は地下水道に變化を來し、同氏宅の井戸水の湧出を閉したるものと思考される次第なり。尙其後に變化ある毎に報告せられ度く願ひ置き、其度に調査致す筈なり。

燒山溫泉噴出の異常

新潟縣高田測候所

昨年五月二十六日より噴出したる本所管内西頸城郡燒山(活火山)山頂の溫泉(攝氏九十度三分)は去る七月二十四日に至り湧出多量となり、同山中腹賽河原の上方、地獄谷附近迄溫泉

の流出を見受ける様になりたる由、同山麓上早川村助役小林初平氏より報告ありたり。

(昭和八年七月二十五日)